



シェイクハンド

第66号
R4.9

～静岡県訪問看護ステーション協議会便り～

なやみは半分、よろこび倍増

さあ みんなで手をつなごう!!

やっと完成！ 訪問看護管理者育成プログラム ～共に学び共に成長するために～

公益社団法人静岡県看護協会 常務理事 松井 順子



令和3年度日本看護協会の「訪問看護総合支援センター試行事業」を受託し、静岡県看護協会と静岡県訪問看護ステーション協議会と共同で「訪問看護管理者育成プログラム」（以下育成プログラムと称す）の作成に取り組み、やっと完成しました。管理者の皆様にお届けできたことを大変うれしく、かつ安堵しております。訪問看護管理者育成委員会、部会の皆様、そしてヒヤリングやアンケートでご意見・ご協力を頂いた管理者の皆様には感謝しています。

この育成プログラムは、管理者の不安に寄り添いたい・管理者は一人じゃない・管理者のネットワークを作りたい等、管理者として共に学ぶ機会を作り、共に成長したい・ネットワークを形成したいとの思いで作成しました。関係者や先輩管理者からの応援メッセージで始まり、応援メッセージで終わるようにしています。また、訪問看護管理者育成シートは、大項目・中項目・小項目と管理者として必要な知識や技術・対応力が記載されています。先輩管理者からのワンポイントアドバイスは、管理者経験の中で培われた貴重な一言です。このワンポイントアドバイスからお読みいただくと入っていき易く共感できることも多いと思います。全てができなければならないことではなく、管理者としてご自分が悩んでいることや不安に感じていること、学びたいことの項目があげられていますので、ご自分の管理者としての成長段階に合わせて、ご活用いただければと思います。

また、自ステーションの次期管理者候補やリーダーと一緒にこの育成プログラムを活用することで管理者業務の理解も深まり、今まで以上に皆さんの

「右腕、左腕」として活躍してくれるのではないかと期待しています。是非、活用してみてください。活用してこそ意味がある！と思っています。

令和4年度から静岡県訪問看護ステーション協議会が県の委託を受け「訪問看護管理者育成研修会」が東部・中部・西部で開催されています。そこでは、実際に評価表に評価点を付けてみて、評価表をもとに研修参加者とグループワークをしています。「自分の弱い部分がわかった」「実際に評価してみると思ったより時間がかからなかった」という意見もあり、この育成プログラムが管理者の皆さんに徐々に浸透していくことを期待しています。そして、この育成プログラムの改訂版ができ、管理者の皆さんと一緒に成長していけることをワクワクしながら、楽しみにしています。

管理者の皆さんは決して一人ではない！多くの関係者が応援し、支援しています！





管理者のみなさんへ ～訪問看護管理者育成プログラムの完成～

静岡県訪問看護ステーション協議会 副会長 多田 みゆき

皆さんこんにちは。富士宮にあります看護リハビリケアステーションひよりの多田みゆきと申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

平成19年に「その人がその人らしく過ごしていただくために・・・最後の最後まで寄り添う看護がしたい」そんな思いから訪問看護を立ち上げ今年で15年目になります。立ち上げた当初は25人ギリギリで、私自身、もちろん訪問も行く、オンコールも持つ、管理業務もあり、それに加えて居宅ケアマネジャー業務もありバタバタの立ち上げでした。早速、医師会や病院等の医療機関、ケアマネジャー等の福祉事業所・行政等に挨拶に伺いました。医師会の会合に参加させていただいた時「訪問看護って何？」と言われ、訪問看護とは何なのかを説明させていただいたところからの始まりでした。ですから、先生からお叱りを受けることもたくさんありました。その度、訪問看護のバイブルといわれる「訪問看護業務の手引き」を片手に何度病院や医院に通ったことかわかりません。訪問看護と訪問介護の区別がつかず「料金が安いからヘルパーサービスで」というケアマネジャーが多い中、研修に出向き訪問介護との違いや訪問看護ならではの特徴と良さを説明させていただいたこともありました。このように地域において訪問看護の周知から始まったスタートでした。

目の前のことを一つ一つこなしていく、というより目まぐるしく一日が終わり、すぐ朝が来る。そんな日々でした。そんな時、そばで一緒に頑張ってくれるスタッフがいてくれたことが支えとなりました。「ついてきてくれる皆の為に何をすればいいのか。所長の私が苦手なこと、嫌なことから逃げてはいけない。所長の私が一歩踏み出し動かないと何も始まらない、何も変わらない。信頼関係も築けない。利用者も獲得できない。事業所の継続も発展もない。まずは私が・・・」そう思って頑張ってきました。一件一件のケースを丁寧に、大切に、訪看が入ってくれて良かったと、利用者や家族はもちろん、先生やケアマネジャーにもそう言うだけでいいように一つ一つ信頼を積み上げ、築いてきました。そうして、ケースもスタッフも少しずつ増えていきました。色々な困難に会う度、皆でその時々の最善を考え話し合いながら進めてきました。でも、会社において看護師のトップは私なので、色々なことに関しての最終決断を出さなければなりません。皆はいろんなことを聞いてきます。正直、迷うことだらけです。でも「私は所長だから、しっかりしなきゃ、できるだけ間違いのない正確な答えが出せるように・・・

私が頑張らないと・・・」その都度判断し答えを出していかなければならないプレッシャーと日々戦いながらケースをこなします。「この答えであっているのか。間違っているのではないか。もしかしたらもっといい答えがあるのではないか」自問自答の繰り返しです。「所長として情けない。こんな私が所長でいいのか。ついてきてくれる皆に申し訳ない」日々へこみました。

そんな中、静岡県訪問看護ステーション協議会の存在が私にとっての救世主でした。協議会主催のあらゆる研修に参加し自身の足りないところの知識技術の修得で少しずつ自信を付け、できるだけこれで良かったのだと思える判断が下せるように取り組みました。人材育成、スタッフ教育にも悩みました。思い悩みへこむこともたびたびで。協議会の研修や会議等で鈴木事務長に相談にのっていただいたり、そこで出会った他の事業所の所長さんたちに話を聞いてもらい相談にのっていただいたり、アドバイスもたくさんいただきました。その存在はとても大きかったです。「皆同じように悩んでいるんだ。私だけじゃないんだ」と知ることができ、そのことが勇気と励みになり「皆も頑張っている、私も頑張っていこう」と思えるようになりました。そのつながりがなかったらきつとつぶれていたかもしれません。ある先輩が「私もそうだったよ。私も通ってきた道だよ」と話してくれました。「ということは、私も乗り越えられる？乗り越えることが出来るんだ」と自信につながりました。先輩方の言葉や励ましが、どんなに支えになったかわかりません。本当に感謝です。今もつながっていて、困ったことがあったら相談にのってくれる先輩や仲間がいます。だから、大変なことがあっても、頑張れるし、頑張ろうと思うし、続けられると思うのです。事業所の中では孤独に思うこともたくさんあると思います。でも、周りを見て下さい。同じような苦しみを乗り越えてきた先輩たちがきつと力を貸してくれるはずですよ。所長同士手を取り励まし合いながら皆で一緒に頑張っていきましょう。

私は、スタッフが笑顔でやりがいをもって訪問看護ができる場をつくるのが大事だと思っています。スタッフが心も身体も元気であればきつといい看護を提供してくれます。そうすると利用者の満足度も上がり、事業所としての実績も上がり、経営状態の安定につながると思っています。所長として大好きな訪問看護を大好きなスタッフと共にやりがいをもって進んでいけるよう頑張っていきましょう。



令和4年度 通常総会

一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会の令和4年度・通常総会は、6月25日（土）に静岡県総合研修所もくせい会館にて開催されました。会員数は233事業所で、うち出席は81事業所、委任状は123事業所で、会員の過半数の出席をもって総会は成立致しました。皆様のご協力にお礼申し上げます。

総会では次の報告と議案が提案され、可決・承認されましたので、ご報告致します。

1. 令和3年度事業報告
2. 令和3年度決算報告
3. 令和4年度一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会理事
4. 令和4年度事業計画・予算

【令和4年度 一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会役員紹介】

会 長	渡邊 昌子	公益社団法人 静岡県看護協会 会長
副 会 長	多田みゆき	社会福祉法人ふらら 地域複合施設ひより 業務部長
副 会 長	福地 康紀	一般社団法人 静岡県医師会 副会長
理 事	松川 香織	訪問看護ステーションうしぶせ 所長
理 事	木原 裕美	医療法人社団 静岡健生会 訪問看護統括所長
理 事	望月 征美	訪問看護ステーションけいあい 所長
理 事	松原 久美	訪問看護ステーションあおぞら 所長
理 事	立花 恒輔	一般社団法人 焼津市医師会 理事
理 事	石神 弘美	(株)訪問看護ステーション・スポット 所長
理 事	大村 早苗	つどいのおか訪問看護ステーション 所長
理 事	松岡 有子	さくらんぼ訪問看護ステーション 所長
理 事	金丸 純子	ハートピアの森リハビリ訪問看護ステーション 所長
理 事	松下 知子	訪問看護ステーションはまおか 所長
理 事	工藤 成美	聖隷訪問看護ステーション富丘 所長
理 事	藤原 京子	訪問看護ステーション安間 所長
理 事	大村美紀子	訪問看護ステーション天竜 所長
監 事	金木 昌之	一般社団法人 三島市医師会 理事
監 事	松井 順子	公益社団法人 静岡県看護協会 常務理事

東部支部長 松川 香織 中部支部長 石神 弘美 西部支部長 工藤 成美

広報委員 ◎木原 裕美、金丸 純子、大村美紀子 ※ ◎は各委員会の委員長
 研修委員 ◎松原 久美、松下 知子、松岡 有子
 総務委員 ◎大村 早苗、望月 征美、藤原 京子
 企画委員 ◎松原 久美、松川 香織、工藤 成美
 石神 弘美、大村 早苗、松岡 有子、松下 知子
 事務局 鈴木 恵子（事務長）、白鳥江里佳、山本 理恵、加藤 飛鳥、石神 泉



ステーション紹介

東部 訪問看護ステーションゆらっくす

ゆらっくす訪問看護ステーションは観光温泉地の街、熱海市にあります。海や山に囲まれ日中は、パノラマで見る絶景の伊豆七島、夕暮れには海に浮かぶ月と街の夜景が彩り、四季を感じながら訪問看護ができる街です。

2021年7月3日、熱海市の伊豆山地区では、未曾有の土石流災害に見舞われ26名の死者、1名の行方不明者となる大惨事になりました。このような土石流災害からもお分かりのように熱海市は急勾配の山間部で、利用者への訪問には自動車が欠かせません。人口は約35,000人で65歳以上の高齢化率が48.6%と静岡県では2番目に高い地域です。全国平均の高齢化率28.7%から比較しても高い数値となっています。

スタッフは常勤3名・非常勤3名の6名で平均年齢は44.5歳です。

当ステーションは、慢性疾患の方や終末期の方など365日24時間対応し、生活環境を重視した看護を大切に地域に根付いた役割を使命とした看護を提供しています。

利用者からは、時には癌を受け入れられずに葛藤し受容するまで気持ちをぶつけられ言葉につまることもあります。時には指導において厳しい言葉を言わざるを得ない時もありますが、常に利用者に寄り添い利用者の目線に立って看護を考える「Thinking nurse」をモットーに、最後はやっぱり看護師で良かったと思える看護を皆で心掛けております。

職場の雰囲気は大変よく、働き甲斐のある職場です。毎月15日と月末はお弁当dayと称し、社長から素敵なお弁当が届けられます。現在はコロナ禍で行くことができませんが、海外旅行や熱海港から伊豆七島沖に出港して海釣り、年度末にはご褒美支給など数多くのサプライズがあり、明日も頑張ろうという気持ちにさせてくれます。

利用者を支える医師・看護師・多職種が一体となり、日々頑張っている職場です。

次は「ラポールあい訪問看護ステーション」さんです。

中部 つどいのおか訪問看護ステーション

大村 早苗



静岡市葵区西部にあるつどいのおか訪問看護ステーションです。近くに安倍川が流れ、花火大会が行われる時は事務所から鑑賞する事ができます。医

療法人社団 盈進会が母体で法人内にはクリニック、居宅介護支援事業所、デイサービス、介護付き有料老人ホーム、今年の4月には通所リハビリがオープンしました。包括支援センター2ヶ所を受託しています。

当ステーションは、平成28年5月に開設し6年目を迎えました。スタッフは非常勤を含め、看護師6名、理学療法士3名、作業療法士1名、事務職員1名の11名です。皮膚・排泄ケア認定看護師と特定行為研修を修了した看護師が1名在籍しています。また、令和2年4月に迎えた新卒看護師も今年で3年目になり活躍しています。年齢も経験も幅広いスタッフの集まりですが、長所を生かし短所を補いながら仕事をしています。



創傷トラブルやストマ管理の必要な利用者を積極的に受け入れ、認定看護師の指導のもとケア方法を共有し実践しています。また、市内ステーションの利用者の皮膚トラブルの相談にも応じていますので気軽にご連絡ください。

法人の理念である4つの安らぎ「安心・安全・安楽・安穩」を基本に、在宅療養する利用者や家族の希望や暮らしに寄り添い、願いが叶えられるように一緒に考える姿勢を大切にしています。利用者や家族ができない事に目を向けるのではなく、できる事に目を向けたケアを目指し、誰が訪問しても変わらない看護が受けられるように訪問前の情報共有やカ

ンファレンスを大切にしてサービスの質を保つよう心掛けています。

また、地域のお機関、多職種と連携し住み慣れたご自宅で最期まで過ごせるように、地域の先生方や法人内クリニックと協働し在宅看取りにも力を入れています。

「訪問看護を利用して良かった」「つどいのおかさんで良かった」という言葉が沢山聞けるように今後も努力していきたいと思ひます。

次は「訪問看護ステーションあんどう」さんです。

西部 訪問看護ステーション北斗わかば

鈴木千絵子

こんにちは。浜松市浜北区にある訪問看護ステーション北斗わかばです。浜北区は浜松市のほぼ中央に位置し、区域の多くに住宅地や田畑が広がる、みどり豊かな自然に囲まれた住みやすい地域です。

当ステーションは北斗わかば病院隣接の、北斗わかば介護施設内にあります。平成29年5月に開設し、今年で6年目を迎えました。現在スタッフは看護師5名です。スタッフの多くが子育てをしながら、訪問看護を行っています。家庭と仕事の両立は大変なことも多いですが、利用者との関わりから元氣や励ましをいただいたり、スタッフ同士のたわいない会話で、その大変さも一気に吹き飛ぶ毎日です。

利用者や家族との関わりではいつも気づきがあり、朝のカンファレンスではスタッフ間で、前日訪問者

の情報共有を活発に行っています。時間に限りがあるため要点をついたものになりがちですが、他のスタッフの些細な気づきにハッとさせられたり、自分だけでは思いつきもしなかったことが提案されたりと、ケアを深める大切な時間となっています。そこで解決できない事柄については、週1回の昼のカンファレンス内で時間を改めてとり、話し合いでクリアにすることで、その方らしさを尊重したケアの提供を心掛けています。

当ステーションは今年度「利用者とその家族の思いに寄り添い、価値観を尊重したサービス提供を行うために多職種との連携を積極的に図る」という目標を皆で立てました。スタッフ一人一人の訪問での気づきを大切にすることで、この目標の達成に向け

て地域の多職種の方々と、横のつながりを深めながら進むことが出来たらと思ひます。

私たちにとって「やっぱり家がいいね」と利用者や家族に言っただけのこと、何よりのパワーの源です。そんな言葉に支えられ、訪問看護という仕事が出来ること感謝しています。この感謝を忘れず、奢らずに利用者ともこれからも向き合っていきたいです。

次は「訪問看護ステーション上西」さんです。





精神科訪問看護研修に参加して

ハートピアの森リハビリ訪問看護ステーション 西村 裕美

開催日時：令和4年5月14日（土）・21日（土）・
6月18日（土）全3日間
場 所：静岡県男女共同参画センター「あざれあ」
大会議室
参加者：44名
研修目的：①精神科疾患について理解を深める
②精神疾患を持つ人の在宅療養を支えるた
めの制度や訪問看護師として役割を学び、
利用者の状態に応じた適切な看護サービ
スが提供できるよう実践能力を高める

私は訪問看護の職について4か月になります。疾患から認知症症状が出ている利用者や、精神疾患を持つ利用者に接するにあたり、戸惑いと怖さを感じることもあります。

利用者に対しては日々敬意を持って、安心していただけるよう接することを心がけていますが、もっと違う考え方でアプローチができるのではないかと感じ研修に参加しました。

我が国は先進諸国に比べ、精神疾患を持つ人に対する制度的に遅れた状況が長年続いていましたが、地域精神医療福祉の改革において「入院医療中心から地域生活中心」に様々な施策が行われ、法律に基づく制度の改定・新設がなされています。精神疾患のある人たちも、地域社会で暮らすための基盤整備が図られるようになり、多職種同士が連携を深め、チームとなって支えていくことが上手に制度を活用することに繋がるということを学びました。

そして精神疾患の特徴は目に見えないため、相手に理解してもらえない障がいが多岐にわたります。また日によって症状の程度は変化するため、調子の良い時と悪い時の違いとパターンを把握してコミュニケーションをとることが大事です。

知的面と生活力はバランスに欠け、プライドは高く傷つきやすく、生きづらさを抱え持っており、散々損をしてきた人達であるということを知りました。

利用者に対して「怖さ」を感じていましたが、利用者の言動には必ず意味があり、解って欲しい事・期待したい事・気遣って欲しい事などがうまく表現できず、暴力・暴言という手段で表現してしまうことがわかりました。誰にでも当てはまることですが「自分がされて嫌なことはしない」が基本的な考え方であることを改めて認識できました。

精神疾患を持った人たちに対して、福祉領域では利用者自身のストレンクス（強み）を基本として支援を考えることが基本的姿勢ですが、看護職は問題解決で関わってしまう傾向にあるようです。問題にばかり意識が集中すると、指導・治療・叱咤といった関わりになってしまいます。服薬管理においても内服を忘れてしまう状況に頭を抱える事があります。

研修では、治療は本人のものであり、医療者主体の管理は必要ないと学びました。私自身もまさに医療者主体の関わりをしてきていることを痛感しました。もちろん緊急事態には問題解決技法を発動して危機を回避しなくてはなりません。状況に応じて両方が使えるようになることが大事で、福祉領域の人との意識のずれを解消し円滑な支援提供につながると感じました。

利用者のストレンクスを把握するためには、まず自分のストレンクスを見つける事が重要です。もともと私はネガティブ思考の持ち主であるため、ポジティブな視点で出来事や物事を多角的に見る事（リフレーミングスキル）ができるよう変化していく必要があると感じています。

研修では、たくさんの事例の紹介がありました。その中で学んだ事は、支援される人が求めているのは支援者ではなく「話を聞いてくれる人」であり「温かみを感じられる人間関係」が大事だということです。訪問中は時間に追われることも多いですが、このことを忘れないよう関わっていきたいと思います。

また、利用者が困っている事に気が付けるようアンテナを高くして、キャッチした情報を他の誰かと共有する事で利用者に必要なサービスの提供ができる事がわかりました。

利用者の夢や希望を実現させるために、1人で抱え込まずストレンクスを活用して、利用者の「出来る事」を大切にしたい支援を心がけたいと思います。





新卒訪問看護師さんより・・・

訪問看護ステーション住吉に今年度も新卒の看護師さんが就職されました。
そこで現在の心境をご本人、先輩ナース、所長さんに伺いました。

「訪問看護に就職して」

訪問看護ステーション住吉
下平 美雨

私は学生時の授業で訪問看護に興味を持ちましたが、新卒では務まらないという思いから、当初は病院への入職を考えていました。しかし、新人から育てようとするプログラムがあることを知り、職場見学・同行訪問の機会をいただきました。その時、疾患に頸髄損傷を持つ利用者宅に訪問し、看護とリハビリの様子を見学しました。そこで、臥床状態であっても「北海道旅行に行きたい」という望みを叶えるべく、計画を立てているお話を伺いました。この計画は悔しくもコロナの感染拡大によって行くことはできなかったそうですが、利用者の望みやその人らしい生活ができるよう考え、支える看護に強く惹かれました。訪問時の利用者や家族の笑顔・訪問の温かな雰囲気も印象的であり、訪問看護に対する先輩方の強い思いを知ることができました。この同行訪問によって訪問看護の世界に入りたいと強く思い訪問看護師を目指し、今は職場見学をしたステーションで働いています。

入職してからの3ヶ月は、仕事の流れを覚えたり同行訪問したり、病院や県の看護協会研修を受け、技術を学んだり他の病院の新卒の方と交流したりしました。病院看護師の独り立ちの様子を聞くと不安になることもありましたが「焦らなくていいよ」と言ってくれる温かな先輩方に助けられながら、必要な視点や技術、訪問看護の良さを日々学んでいます。また、受け持ちの利用者を決め、全体像や手順書を作成し少しずつケアを実践し、独り立ちに向けた訪問をしています。実際に行うと難しいと感じることもありますが、その都度振り返りをし、アドバイスをいただきながら、少しずつですができることも増えてきており、自信に繋がっています。まだ利用者や先輩方に温かい目で見守って頂いている状態ですが、多くの方に支えられながら働いていることに感謝しながら、



利用者に信頼される訪問看護師になり成長できるよう精進していきたくと思います。



「訪問看護に就職した下平さんについて、先輩ナースより」

訪問看護ステーション住吉
松田 栄美

下平さんの新卒育成を担当した当初、新しい事への挑戦でワクワクした半面、静岡県訪問看護ステーション協議会で作成した「新卒訪問看護師育成プログラム」を熟読して、どう関わっていけばよいか不安がありました。ただ、当ステーションでは新卒看護師をすでに採用しており、職員の協力のもと訪問状況等の助言をもらい、みんなで一緒に関わっているため不安もやわらいでいます。また、毎朝元気に「おはようございます！」と出勤する下平さんの姿を見て「私も笑顔で頑張らないと」と逆に元気をもらっています。

現在は単独訪問に向けて少しずつ実践をしています。今は一歩ずつ知識・技術・アセスメントの力が身につけられる様に、私も利用者や仲間からの応援を自分のものにし、失敗や悩みを沢山経験し共に成長していきたいと思っています。

私の大好きな訪問看護の魅力を存分に伝えながら、1番身近な存在であり続けたいです。



「訪問看護に就職した下平さんについて、所長より」

訪問看護ステーション住吉
所長 山口 美津子

昨年度、初めて当ステーションで新卒看護師を採用しました。同一法人ですでに新卒看護師を育成しており、その経験のあるスタッフが異動で当ステーションにいたこと、スタッフの協力、静岡県訪問看護ステーション協議会の支援もあり、訪問看護師として、2年目を迎えられました。そして、今年も下平さんを迎えられたことを嬉しく思います。

2人が訪問看護に魅力を感じ、一緒に仕事をする仲間となり、スタッフとともに新たな気持ちで学ぶことができている。これからも利用者へ寄り添い、キラキラした魅力ある仕事と感じられるようにスタッフみんなで支えていきたくと思っています。

静岡県訪問看護ステーション協議会の皆様、研修を受け入れていただいた方々に感謝いたします。



研修のお知らせ

新型コロナウイルス感染症対策として受講者の皆様にはマスク着用、手指消毒、検温へのご協力をお願いしております。よろしくお願い致します。

◆**技術向上研修** 申込締切は開催日の1週間前までです。

地区	開催日時	会場
東部	令和4年10月13日(木) 18:30~20:30	プラサヴェルデ402会議室
	令和4年10月27日(木) 18:00~20:00	富士市ロゼシアター第3会議室
中部	令和4年11月9日(水) 18:30~20:30	オンライン(予定)
西部	令和4年12月2日(金) 18:00~20:00	アクトシティ浜松研修交流センター401会議室

◆**認知症訪問看護研修** 申込締切 中部は令和4年11月18日(金)、西部は令和4年10月7日(金)まで。東部の募集は終了しました。

地区	開催日時(各地区全2日間)	会場
中部	令和4年12月17日(土) 10:00~16:00	静岡県総合社会福祉会館シズウェル601会議室
	令和4年12月18日(日) 10:00~16:00	
西部	令和4年11月5日(土) 10:00~16:00	アクトシティ浜松研修交流センター62研修交流室
	令和4年11月6日(日) 10:00~16:00	

◆**小児訪問看護研修** 2日間出席可能な方。申込締切は令和4年10月21日(金)まで。東部・西部は終了しました。

地区	開催日時(全2日間)	会場
中部	令和4年11月19日(土) 10:00~16:00	静岡県総合社会福祉会館シズウェル601会議室
	令和4年11月20日(日) 10:00~16:00	

◆**経営セミナー・開設セミナー** 申込締切は開催日の5日前までです。受講許可書等は発送しません。

セミナー	開催日時	会場
経営セミナー	令和4年12月6日(火) 10:00~16:00	ホテルアソシア小宴会場2階
開設セミナー	令和4年12月12日(月) 13:30~16:00	ホテルアソシア小宴会場2階

お知らせ

★東洋羽毛株式会社様より、サージカルマスク4,800枚、アルコールハンドジェル120本、除菌シート600個の寄付を頂戴いたしました。総会当日出席者にお配りし、今後は研修会に参加された方に配布させていただく予定です。

編集後記

温暖化の影響なのか、各地で豪雨災害が発生し被害が出ています。

暑い日が続き秋が短く感じられます。

秋めいた空気や風景、虫の声。

いつまでも四季を感じていたいですね。



シェイクハンドNo.66

2022年9月発行

発行所 一般社団法人 静岡県訪問看護ステーション協議会
〒420-0839
静岡市葵区鷹匠3丁目6番3号
静岡県医師会館4階
Tel 054-297-3311
Fax 054-297-3312
e-mail sizuokahoumonst@cy.tnc.ne.jp

発行人 渡邊 昌子
編集者 木原 裕美(医療法人社団 静岡健生会) 東部
金丸 純子(ハートピアの森リハビリ訪問看護ステーション) 中部
大村美紀子(訪問看護ステーション天竜) 西部